

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0139
施設名	まごころ会保育園
施設所在地	東京都北区上中里2-37-2
法人名	宗教法人 聖正道教団

1. 活動のテーマ

<テーマ>

運動と発達

<テーマの設定理由>

運動は単に「足が速くなる」「筋力がつく」ということだけではありません。体をコントロールする運動は、脳を刺激し、集中力、感情のコントロール、自己肯定感、さらにはコミュニケーション能力を育む土台となります。「運動の根底にある発達のメカニズム」を保育者が理解し、日々の活動に生かせるため、このテーマを掲げました。

2. 活動スケジュール

昨年度は、年齢別の日常保育、異年齢の合同活動、の中で「運動と発達」プログラムを実践しました。各クラスでは、乳児のハイハイから幼児の集団競技まで、発達段階に応じた身体遊びを日々展開。月1回～2回サーキット遊びや季節の行事では、異年齢の交流を通して子ども同士の育ち合いを促しました。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

安全に配慮しつつ、子どもが自発的に挑戦したくなる環境を整えました。素材には、ジャンプやバランス感覚を育むクッション性の平均台や、またがって遊ぶ縦型の棒状クッション玩具を新たに導入。さらに、非日常的な浮遊感の中で体幹や空間認知能力を鍛えられる「エアートランポリン」を設置しました。これらを組み合わせ、乳児が安心してハイハイでき、幼児がダイナミックに躍動できる、発達段階に応じたサーキット環境を構成しました。

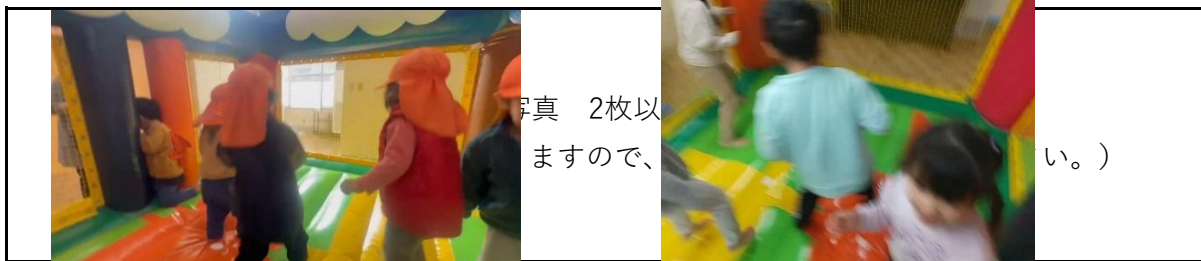
4. 探究活動の実践

<活動の内容>

膨らんでいくエアートランポリンの様子を観察して期待感を高めた後、1人ずつゆっくりと中に入り、手足で触れたり寝転がったりしながら、フワフワと沈み込む独特の感触や柔らかさを全身で味わっていました。不安定な床の上で手を広げてバランスを取りながら「足踏み」や「ペンギン歩き」をして環境に慣れた後ダイナミックなジャンプを楽しむ姿が見られました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

エアートランポリンの活動において、集団におけるルール遵守や気持ちの切り替え（自己統制力）の育ちが感じられる効果が得られました。「タイマーが鳴ったら交代」「中は走らない」という約束事を事前に確認すると、タイマーの音が鳴った際には名残惜しそうにしながらも、「あ、時間だ！次どうぞ」と自ら気持ちを切り替えて次の友達に場所を譲る姿が見られ、待っている間も、中で跳んでいる友達に「がんばれ！」「高く飛べてるよ！」と手拍子で応援し、クラス全体で一体感を楽しむことができました。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

通常の床とは異なる「不安定な環境」が、子どもたちの運動欲求と集中力を自然に引き出したと考えます。ジャンプの高さだけでなく、あえてお尻から着地したり四つん這いで進んだり、自ら重心を変化させてバランスを取ろうとする姿が見られ、遊びの中で体幹や空間認知能力が効果的に刺激されていると感しました。また、慎重な子が保育者と手を繋ぐことで恐怖心を克服し、次第に笑顔で足踏みを始めるなど、安心感から意欲的な挑戦に繋がることを再確認できました。